

「JENESYS2.0」

中国大学生訪日団第20陣

訪問日程 平成27年6月2日（火）～6月9日（火）

1 プログラム概要

中国日本友好協会が派遣した中国大学生訪日団第20陣計99名が、6月2日から6月9日までの7泊8日の日程で来日しました。（団長：朱丹（シュ・タン）中国日本友好協会 副秘書長）

本事業は「JENESYS2.0」の一環として行われ、訪日団は東京都をはじめ、宮城県、岩手県を訪問し、「クールジャパン」を含め、さまざまな分野における日本の魅力、強みを体感したほか、日本の大学生との交流、教育に関する幅広い活動を通じて、同世代や一般市民との友好交流と相互理解を深めました。

2 日程

6月2日（火）

成田空港より入国、オリエンテーション

6月3日（水）

東京学芸大学訪問・教育に関する講義・交流、浅草寺・仲見世見学、歓迎会

6月4日（木）

宮城へ移動、青葉城址・大崎八幡宮見学、宮城県教育委員会講義

6月5日（金）

宮城教育大学附属小学校視察、宮城教育大学訪問・交流、仙台市博物館視察

6月6日（土）

石ノ森萬画館視察、松島見学、日本文化体験（藍染め、こけしの絵付け）、和風温泉旅館での日本文化体験

6月7日（日）

岩手へ移動、世界遺産・平泉見学、東京へ移動

6月8日（月）

皇居二重橋見学、国会議事堂・森ヶ崎水再生センター視察、商業施設視察、歓送報告会

6月9日（火）

東京タワー見学、国立科学博物館視察
成田国際空港より出国

3 写真

	
<p>6月3日 東京学芸大学訪問・岩田康之東京学芸大学教員養成カリキュラム開発研究センター教授による講義（東京都）</p>	<p>6月3日 東京学芸大学訪問・交流（東京都）</p>
<p>6月3日 访问东京学艺大学，听取东京学艺大学教员培养课程开发研究中心岩田康之教授的讲座(东京都)</p>	<p>6月3日 访问东京学艺大学并进行交流（东京都）</p>
	
<p>6月3日 浅草・仲見世見学（東京都）</p>	<p>6月3日 歓迎会 公益財団法人日中友好会館 江田五月会長の挨拶（東京都）</p>
<p>6月3日 参观浅草・仲见世（东京都）</p>	<p>6月3日在欢迎会上公益財団法人日中友好会館 江田五月会长致辞（东京都）</p>
	
<p>6月4日 青葉城址見学（宮城県）</p>	<p>6月4日 宮城県教育委員会講義（宮城県）</p>
<p>6月4日 参观青叶城址（宫城县）</p>	<p>6月4日听取宫城县教育委员会讲座(宫城县)</p>

	
<p>6月4日 大崎八幡宮見学（宮城県）</p>	<p>6月5日宮城教育大学附属小学校視察(宮城県)</p>
<p>6月4日 参観大崎八幡宮（宮城県）</p>	<p>6月5日考察宮城教育大学附属小学(宮城県)</p>
	
<p>6月5日 宮城教育大学訪問・交流（宮城県）</p>	<p>6月5日宮城教育大学訪問・交流（宮城県）</p>
<p>6月5日 访问宮城教育大学并进行交流 （宮城県）</p>	<p>6月5日 访问宮城教育大学并进行交流 （宮城県）</p>
	
<p>6月5日 仙台市博物館視察（宮城県）</p>	<p>6月6日 石ノ森萬画館視察（宮城県）</p>
<p>6月5日 考察仙台市博物館（宮城県）</p>	<p>6月5日 考察石之森萬画館（宮城県）</p>

	
<p>6月6日 松島見学（宮城県）</p>	<p>6月6日 日本文化体験（こけしの絵付け） （宮城県）</p>
<p>6月6日 参观松島（宮城县）</p>	<p>6月6日 体验日本文化（木偶描画上色） （宮城县）</p>
	
<p>6月6日 日本文化体験（藍染め体験）（宮城県）</p>	<p>6月6日 和風温泉旅館体験（宮城県）</p>
<p>6月6日 体验日本文化（手帕靛青染）（宮城县）</p>	<p>6月6日 体验日式温泉旅馆（宮城县）</p>
	
<p>6月7日 世界遺産・平泉（中尊寺）見学 （岩手県）</p>	<p>6月7日 世界遺産・平泉（毛越寺）見学 （岩手県）</p>
<p>6月7日 参观世界遗产平泉中尊寺(岩手县)</p>	<p>6月7日 参观世界遗产平泉毛越寺(岩手县)</p>

	
<p>6月8日 皇居・二重橋見学（東京都）</p>	<p>6月8日 国会議事堂視察（東京都）</p>
<p>6月8日 参观皇居・二重桥（东京都）</p>	<p>6月8日 考察国会议事堂（东京都）</p>
	
<p>6月8日 森ヶ崎水再生センター視察（東京都）</p>	<p>6月8日 歓送報告会パフォーマンス披露（東京都）</p>
<p>6月8日 考察森之崎水再生中心（东京都）</p>	<p>6月8日 在欢送报告会上表演节目（东京都）</p>
	
<p>6月9日 東京タワー見学（東京都）</p>	<p>6月9日 国立科学博物館視察（東京都）</p>
<p>6月9日 参观东京塔（东京都）</p>	<p>6月9日 考察国立科学博物馆（东京都）</p>

4 参加者の感想（抜粋）

○私は大学で日本語を専攻しており、将来は日本語教育に関わる仕事に就くことになるだろう。今回の訪日プログラムでは、宮城教育大学附属小学校の見学が心に残っている。中国での教育はテスト中心主義で、授業は常に教師が話し、学生はただそれを聞くというスタイルだ。だが日本では、子どもたちと教師の双方向でのやりとりがあり、どの授業も生き生きとして面白く、子どもたちの興味をうまく引き出そうとしていた。わが国の教育とは極めて対照的だ。

私は、教育には楽しさがあってこそ初めて学習効果が上がるものだと考えている。日本での授業を見て、中国はこの双方向性にもっと力を注ぐべきだと感じた。もちろん制度改革には時間もかかる。だが今回の訪日で、私は中国の教育のこれからの方向性を見出したように思う。

○今回の訪問で心に残った出来事はたくさんある。とりわけいくつかの学校訪問を通じて、日本の教育の現状や特色ある教育理念について知ることができたのは大きい。学生の育成を書物による知識の習得だけにとどめるのではなく、自主独立の精神と「生きる力」・忍耐と思いやりの心・人としてあるべき姿・体力の増進といった全人的な力の総合的向上を目指していることに深い感銘を受けた。全人的な成長こそが、ただテストで良い点を取れるということよりもっと大切なのだ、という教育のあり方を知った。

他にも日本の温泉文化や宴会も気に入った。自分を解き放つということ、生活を楽しむということをそこから学んだ。また、人にやさしい各種公共の設備、トイレ、表示案内、自動販売機などもとても便利だ。街中どこも塵ひとつないほどきれいだし、人々のごみの分別に対する意識も高い。そして直接飲むことのできる水道水、とても親切で我慢強い世界トップクラスのサービス業など、どれも私たちが見習うべきことだと感じた。日本人の互いに相手を敬い譲り合う礼儀正しさは、国全体のレベルの押し上げにもつながり、極めて良い印象を人に与える。美しい松島の風景は「あたかも仙境に遊ぶがごとし」で立ち去るのが惜しい気分だったし、マンガ文化や日本文化体験も自分で実際に手を使い、とても楽しかった。またスピーディーで便利な交通機関など、たくさんの事柄を私はありのままに周りの友だちに伝え、詳細で具体的な日本を紹介したい。民間の立場から両国国民の友情と調和に微力を尽くしたいと思っている。

○今回の訪問で印象に残ったことは余りにも多い。しかしその中で最も心に残るものを挙げるとすれば、おそらくこれから何度も思い出すに違いない「東京学芸大学」ということになるだろう。

東京学芸大学では、私たちはまず岩田教授のセミナーを聞いた。内容は日本の教育制度と東京学芸大学のカリキュラムや体制、そして教育における諸問題だった。中身の濃いセミナーを通じ、私は「強い国の教育の素晴らしさ」というものをしっかりと感じ取ることができた。これはもちろん自国にいてはわかるはずなどない。私は見学する中で、自分の肌で直にその素晴らしさに触れたのである。例えば教員養成系大学としてのカリキュラム設計、学生の総合的な能力養成プラン、多面的な資源の総合活用、学内のハー

ド面とソフト面の合理的な融合など、これらは私にはとても衝撃的だった。そして中でも取り上げるべきは交流プログラムで出会った1人の日本の友人である。楽しく交流するうち、私たちはお互いの素晴らしさに気づき、学び合いたいと願った。中日両国の若者同士、こうした友情が両国間のこれからの新たな友好の1ページを開くことになるのでは、と感じた瞬間だった。

次に帰国後どういった出来事或いは何について伝えたいか、ということだが、私は師範大学の学生としてこう考える。今回学んだ先進的な教育理念や学校の総合的な運営体制などについて、完全な形で、且つ詳細に中国の若い人たちや教師に伝えていくことだ、と。中国と日本は海を隔てた隣国であり、教育という事業を通じて両国の新たな友好の歴史を切り開き、築いていくのは、私たち若い世代が担うべき責任である。またいつの日か日本を訪れたいと思う。そして中日関係のために、教育のために、これからも貢献し続けていきたい。

○今回の訪問で、私は日本に対する見方がすっかり変わったと同時に、自分の将来についても全く新しい考えを持つようになった。日本は先進国であり、わが国が現在辿っている発展段階をかつて経験してきた。私は隣国の大学生として、今回の訪問で日本のこうした経験を学び取らねばならないと感じている。例えば、環境の保全や文化の保護・伝承についての意識、また日本人の国民レベルなど、いずれもわが国が今見習うべき事柄である。帰国後は、日本のこれら先進的な理念を伝えていかなければ、と感じている。そうして初めて、わが国も真に健全な発展を実現できるのではないだろうか。

また、この度自分にとって最大の衝撃はやはり教育だった。日本の進んだ教育理念は中国が今学ぶべき目標である。国は教育に更に一層力を入れるべきで、隣国の先進的教育理念と国内の客観的実情を組み合わせ、絶えず教育改革を推し進めて、わが国の青少年がより良質で理にかなった教育を受けられるようにすべきだと考える。

日本人の民度の高さや優れた品性も我々が見習うべき点だろう。絶えず国民レベルの向上を図り、合理的な政策を定め、わが国を名実共に発展し続ける国家としていかなければならない。

○この度の訪問では、美しい自然、先進的な教育理念、ハイテクノロジー等どれもが印象深かった。だが最も私の心に残っているのは、「森ヶ崎水再生センター」である。この分野について私は素人同然だが、説明を担当したのが、全員定年退職後に再びボランティアとして戻って来た方々だと聞き、心から敬服してしまった！中国では、一旦定年で退職した老人がまた職場に戻ってボランティアをするなど減多になく、多くはそれより家族や孫らと団らんの喜びを共にすることを願う。とはいえ、その実息子や娘たちも仕事に追われて年寄りに寄り添う時間などなく、人によっては心のうちに大きな孤独を抱えている、というのが現実だ。ただ、これも両国の考え方の違いによるのかもしれない。日本人は常に自分が社会の役に立ちたいと思っている、というのが、私がいつも彼らから受ける印象だ。だから老人とはいえ、望んで力を差し出そうとしているのだろう。本当に尊敬する。このことが強く私の心に残っている事柄だ。

今回の訪日で私が出会った日本の友人たちは、それぞれ年齢も性別も職業も異なるけ

れど、皆とてもフレンドリーで、積極的に関わろうという空気を感じた。帰国後私は周りの皆に、普通の日本人は皆平和を愛し、中国人にも温かく、親しみやすく友好的だったと伝えたい。中国には日本に対し偏見を持っている人もいるし、日本にだって中国に偏見を抱いている人はいるだろう。双方の市民同士の積極的な交流を継続して推し進め、お互いの理解を促し、誤解を解消し、長期にわたって友好関係を維持しようという姿勢が、世の大勢となることを私は願っている。「中日友好」は必然の流れであり、友好的な発展こそが両国国民の利益をしっかりと守ってくれるものだとすることを、私自身が周りに伝えていきたいと思う。

○ 印象に残っていることといえば次の二つだ。

一つ目は日本の小学校教育についてだ。小学校を見学した時の衝撃は大きかった。私の大学での専攻は就学前教育なので、日本の「トモエ学園」のことは少し知っていた。今回幼稚園での訪問交流はなかったものの、日本の小学校での授業や施設環境などを見て、多くの点で中国とは異なった教育理念やスタイルに貫かれていることを目の当たりにした。小学生は皆同じランドセルを背負い、自分たちで歩いて学校に通い、親の送迎などはない。中国ではありえない光景だ。カリキュラムも違っている。私たちが小学校を訪れた時、子どもたちはそれぞれの植木鉢に可愛い苗を育てていた。自分たちの手で植えたものだ。他にも家庭科や実験の授業などもある。日本の教育は生活を大切にし、徳育と教育が密接に結びついているのだと知った。

二つ目は、日本では街行く人々の服装がわずか3種類の色しかないということ。黒、白、グレー、他に一番多かったのは水色だ。私はとても理解に苦しんだ。すると通訳の方が、日本人は中国人と違い、自分が人と違うのを嫌がるが、中国人は自分が人と違うのを好む、と教えてくれた。なるほど、考え方の違いからなのだ。このことは私に多くのことを考えさせた。

中国に戻ったら、私は日本の先進的な教育理念、進んだ科学技術、人々のマナーや礼儀正しさ等私たちが見習うべき多くのことを伝えたい。水再生センターのこと、小学校のこと、日本人の時間に対する意識や勤勉さ、これらのことも周りのみんなに伝えていければ、と思っている。

○まず日本について「いいね！」しなければならない点は、環境保全の素晴らしさである。訪日前にも聞いてはいたが、日本にいる間街角でごみを見かけることなどほとんどなく、塵やほこりも感じない上に空気も良い。森ヶ崎水再生センターを見学した時には、こうした環境に配慮された施設に愉快的気分になり、中国ももっと日本の汚水処理方法を取り入れ、環境意識を高めて、共に美しい地球村を作り上げていけたらよいのに、と思った。

次に、日本の教育の実践を重んじるという特徴についてだ。日本では子どもの主体性が大切にされて、特にカリキュラムがとてもいい。家庭科や社会科といった教科があり、子どもの生活能力や国・社会への関心と責任感を育てている。また、日本の大学では授業量が比較的少なく、学生はより多くの自主的な学びの時間を与えられているようだ。ハード面や施設も素晴らしく、学習環境が整っていた。

日本の景色も美しかった。観光業が発達し、産業の一つのあり方として確立されている。また、日本人はとても友好的で優しく、そして親切である。中でも最も敬服したのは日本人の仕事に対する姿勢だ。非常に真面目で細やかで、きちんとした仕事振りだった。

○日本の教育を重んじる姿勢は、中国が非常に見習うべき点だと思う。そしてそれは「学生本位」での実践の重視であり、形式主義などではない。東京学芸大学と宮城教育大学および宮城教育大学附属小学校を訪れた時、私は日本の教育路線というものが、未来へと続く希望に満ちた長期戦なのだと気付いた。日本人はしっかりと「教育」を民族の振興と発展の基本に据え、学生個々人の状況に応じた、真に人にやさしい教育を施している。とりわけ読み書きといった学生の基本的素養については、幼い頃より知らず知らずのうちに身に付くよう生まれ、やがてそれは国民全体のレベル向上につながり、「優秀な民族」との誉れに恥じないものへと昇華していくのだ。

○東京学芸大学での岩田教授のセミナーを聞いて、私は多くのことを感じた。日本では各成長段階にある子どもたちの教育について、国がこれをとても重要視しており、常に改革と改善を行っていること、そしてそれは教師の養成段階から始まっていることを知った。また学芸大学での交流を通じ、中国と日本では教育制度が異なるだけでなく、日本では「教師」という職業が、休みが極めて少ないにもかかわらず、子どもたちにとって素敵な憧れの職業であることも知った。私たちは両国の教育の発展のため、この分野でもっと交流を深めるべきだと思う。共に教師という仕事の大切さと神聖さを知る者同士なのだ。

ところで、私が最も感動させられたのは、宮城教育大学附属小学校だった。1年生のうちから音楽のリズム感を養うことやその表現に力を入れていたり、英語の授業では先生と子どもたちの双方向でのやり取りがあり、無味乾燥な言葉の学習が楽しさいっぱいのものになっていたりした。日本ではこうして小さいうちから英語力を培っているのだ。「この子たちの英語うまいなあ」。これがその時授業を参観していた全ての先生方と私たちが最後にもらした感嘆のため息だった。

私たちは毎回次の新たな場所へ行き、1人の、或いはもっとたくさんの人と友だちになる。しかし別れもまたすぐにやって来る。しかし幸せなことに、だからこそ私たちが出会えたこと、触れ合えたことをありがたく思う。この縁が続くことを願う。文化や芸術、交流、そして友人には国境などないのだから。

○この度の訪日では、滞在期間は長くなかったものの極めて多くのことを感じた。中でも私にとって最も印象に残ったのは次の2点である。まずは日本人の時間に対する意識の高さ、次に社会全体を包む雰囲気の良いさだ。

私たちの毎日のスケジュールはとてもタイトで、そして細やかだった。朝起きてから夜プログラムが終了するまで、全ての活動内容の時間配分はとても正確で、ほぼ15分前行動が常とされた。こうなると「遅刻」などというのはもはや過去形で、事はいつも前倒しで完了する。日本人の効率の高さや正確性はこれと無関係ではあるまい。また時

間に厳しいというのは、決して慌ただしいと同義ではない。そこには秩序がある。例えば、毎回プログラムが終了し会場を出る際、日本側スタッフはうまく団を分散させ、順序良く退室を促してくれた。対してわが国で度々起こる将棋倒し事故など、一度よく考えてみるべきだろう。日本では至る所で時計を目にする。時計は秩序の象徴であり、文明やモラルを担保するものなのだ。

更に、日本では人と人との関係(たとえそれが見知らぬ者同士であったとしても)が、とても礼儀正しく丁寧だ。微笑みと礼が醸す優しい空気がこの国には満ちていて、誰もが穏やかで温かい気持ちになれる。人と人との交わりは本来こうあるべきだろう。例えば、コンビニの店員さんはいつも微笑みながらすすんでお客に挨拶するし、バスのドライバーさんも乗客一人ひとりに頭を下げる。たとえそこが街の片隅であろうが、深山幽谷だろうが、果ては人々の心の中であろうが、お互い血縁関係も利害損得もないにもかかわらず、まるで兄弟姉妹のように相手を大切にするのだ。これこそその民族が持つ精神の発露であり、その国が永く発展するための基本であると言えまいか。

帰国後はまず自分の行動を変えることから始めてみようと思う。最初は全体を眺める広い視野で物事をとらえること。次に笑みと謙虚さを忘れず、人を思いやり助けること、更には一人の師範大学生として、「智・徳・体・美・働」を備えた全人的成長を目指すこと、そして時間管理をしっかりやること……。これらが、私が周りの人々に伝えたいと思う事柄である。自分が見たこと、聞いたこと、思ったこと、感じたこと、これら全てをみんなと分かち合いたいと思っている。

最後に、今回日本が私にこうした機会を下さったことに感謝したい。中日両国の友情が末永く続くことを願って！

○私にとって今回の訪問で最も印象深かったことは、日本の教育だったように思う。たぶん自分が師範大学の学生だからだろう、やはり教育のことがとりわけ心に残っている。日本の教育理念は中国にも参考になるのではないか。日本では教員養成のための専門の学校教育系課程が設置され、教師の質が担保されているだけでなく、授業でのクラス規模も小さく、少人数教育を行うことで専門性や高い学習効果も保証されている。また教育大生に実践を積ませるための教育実習校まで備わっている。そして学校と家庭と地域が緊密に連携し、子どもたちの「夢」を「志」へと高める教育が行われているのだ。

他に、私は今回日本の静けさ、清潔さ、そして激しいバトル、この異なる三つの雰囲気味わった。日本では、公共の場はその多くがとても静かだ。更に街の通りにも繁華街にも塵ひとつない。ところが、毎日の通勤時間ともなれば、道路だろうが歩道だろうが駅だろうが、行き交う人々は皆とても慌ただしく、時間との激しいバトルを繰り広げるのだ。一方、人に接する時或いは物を扱う時、日本人の常に微笑みを絶やさず、丁寧に対応する様子には尊敬の念すら覚えた。これら私の心に残った様々な出来事を、帰国後周りの人々に伝えていきたいと思っている。

○今回の訪問では、私は毎日たくさんのことをメモし続けた。見たこと、聞いたこと、思ったこと、その全てを記録に残した。毎夜ホテルに戻ると、その日の収穫を整理し、文章につづり、繰り返し総括した。

私にはある種の使命感のようなものがある。文化の伝道者になりたいのだ。溢れんばかりの成果を自分の大学に、学部、そして故郷に持ち帰り、より多くの人たちとこの数日間の体験を分かち合いたいのである。枠組みを作り、時間を決め、旅程を組み立て、出発前には情報の突き合わせをし、終了後にはまたそれをフィードバックする、こうした仕事振りについて大学の仲間や友だちに報告したい。また自分の長所や欠けている部分についても他の人と共有したいと思う。

時間に対する意識というのも今回大きな収穫だった。この訪日プログラムにおける全く無駄のないスケジュールと隙のない仕事は、全て事前に練り上げられた計画にきっちり沿って進められる。紙に何時と書いてあれば、まさにその通りの時間に事が進んでいくのだ。これ以外にも個々人が備えるべき能力というのものもある。総合的な力、物事を組み立て差配する力、立案計画力、組織管理能力、人とのコミュニケーション能力等である。

最後に、私がより見習いたいと思ったのは、日本人の磨きに磨きを重ねる精神、更にも上を目指し頑張り抜くプロ意識というものだ。そしてこのことをみんなにも伝えていきたいし、そこから学び取ってほしいとも思う。もちろん、間接的に学ぶのと直接学ぶのでは違いがある。だからこそ、中日両国間で、特に大学生同士でこうした交流の機会をもっと増やし、更に多くの中国の学生に自分自身で日本の姿とその魅力に触れてほしい。同時に日本の学生にも自ら中国を訪れ、数千年の文明大国が誇る文化と伝統を感じ取ってもらいたいと願っている。